

# 小学校国語科における 自分の考えをもち、表現できる児童の育成

—— 視点を明確にした振り返り指導を通して ——

長期研修員 杉山 公子

## 《研究の概要》

本研究は、小学校国語科における自分の考えをもち、表現できる児童の育成を目指したものである。

学習したことに対する自分の考えをもち、自分の言葉で表現することができるようにするために、視点を明確にした振り返り指導を行う。学習のサイクル「見通し」「深め進める」「振り返り」のそれぞれのステップにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けをする。また、「振り返り」において「振り返りポイント」を活用し、めあてに沿った振り返りになるような視点を明確にした書き方指導を行う。このような指導が、学習したことに対し自分の考えをもち、表現する力の向上に有効であることを、実践を通して明らかにした。

**キーワード** 【国語—小 自分の考え 考えの形成 振り返り 視点】

群馬県総合教育センター

分類記号：G 0 1 - 0 2 令和3年度 276集

## I 主題設定の理由

国語科では、「思考力、判断力、表現力等」の全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。言語活動を通して、児童が自分の考えをもったりまとめたりすることができるような指導が求められている。

令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果資料では、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」という設問に対して、「当てはまる」と答えた児童は25.6%、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」という設問に対して、「当てはまる」と答えた児童は26.5%にとどまっている。また、「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか」という設問に対し、「当てはまる」と答えた児童は33.9%であった。このことから、自分の考えをもったり自分の言葉でまとめたりすることができるような「考えの形成」を重視した指導が重要なことが分かる。

また、上述の調査においては、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という設問に対し、「当てはまる」と答えた児童は32.7%という数値であった。このことから、学習したことを次の学びに生かすための振り返りの充実が求められていることが分かる。

群馬県においても、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という設問に対し、「当てはまる」と答えた児童が32.4%にとどまっているなど、上述の調査の各項目で全国の数値と類似した結果となっている。また、研究協力校（以下、協力校）の教師に児童の実態に関する聞き取り調査を行ったところ、「振り返りを書く活動では、学習したことに対する自分の考えを自分の言葉で書くことが難しい」や「学習して何が身に付いたのかを自覚できていないため、本時の学びを以降の学びに十分に生かすことができていない」等の回答を得た。協力校においても、学習したことに対して自分の考えをもったりまとめたりすることや、学習したことを次の学びに生かすことに課題があると考えられる。

このような状況の改善には、児童が自分の考えをもち、表現できるようにするための振り返り指導が必要であると考え。そこで本研究では、視点を明確にした振り返り指導を行う。自己調整学習の考え方である「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童が学習したことに対し自分の考えをもてるようになることを考える。また、振り返りの視点として「振り返りポイント」を設定し、視点を具体化して示したり書き出しや文末表現の例を提示したりして、視点を明確にした書き方指導を行う。これにより、児童がめあてに沿った振り返りを書くことができるようになることを考える。このように、「考えの形成」の学習過程を重視した学習において、視点を明確にした振り返り指導を行うことで、学習したことに対し自分の考えをもち、表現できる児童が育つのではないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校国語科の「考えの形成」の学習過程を重視した学習において、視点を明確にした振り返り指導を行うことで、自分の考えをもち、表現する力が育つことを、授業実践を通して明らかにする。

## III 研究仮説（見通し）

### 1 自分の考えをもつ

「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えをもてるようになるであろう。

## 2 自分の考えを表現する

「振り返り」において「振り返りポイント」を活用し、めあてに沿った振り返りになるように視点を明確にした書き方指導を行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを表現できるようになるであろう。

# IV 研究の内容

## 1 基本的な考え方

### (1) 「自分の考えをもち、表現できる児童」とは

「考え」には、課題に対して自分はどのような立場であるかを示す「意見」や、課題をどのように捉え理解したのかを示す「解釈」などがある。学習過程の「考えの形成」では、単元の学習を通して理解したことを基に意見をもったり解釈したりするといった、自分の考えを形成できるようにする指導が求められている。また、「考え」には、「〇〇は自分にとってどのような学びになったか」という課題そのものの意味や価値を捉えるものがある。

本研究では、「考えの形成」の指導事項を目標として扱う単元の指導を通して、意見や解釈などの「考え」を形成できるようにするとともに、何を学んだか、どのように学んだか等、学習したことに対する「考え」をもつことのできる児童を「自分の考えをもち児童」とする。また、学習したことに対する考えを自分の言葉で表現することのできる児童を「自分の考えを表現できる児童」とする。

### (2) 「視点を明確にした振り返り指導」とは

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料では、「主体的に学習に取り組む態度」について、「知識・技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する」と示されている。

教育心理学では、この自らの学習を調整しようとする学習を「自己調整学習」と呼んでいる。自己調整学習では、予見（見通し）、遂行コントロール（深め進める）、自己省察（振り返り）の三つのステップを回していくことが重要であるとされ、自己省察（振り返り）を次の学習の予見（見通し）に反映させることで、自己調整学習のサイクルが成立するとしている。

本研究では、「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルのそれぞれのステップにおいて、「学習の見通しをもつ」「学習を調整する」「学びを自覚する」という目的に応じた振り返りの視点を定め、それらの視点に沿って振り返りを促す言葉掛けを行う。また、単元の振り返りの視点として「振り返りポイント」を設定し、各単位時間の振り返りでは、「振り返りポイント」を具体化して提示したり、書き出しや文末表現の例を提示したりして、視点を明確にした書き方指導を行う。これらの指導を、視点を明確にした振り返り指導とする。

## 2 手立ての説明

### (1) 振り返りの視点と言葉掛け

「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促していく。振り返りの目的と視点、言葉掛けの例を以下に示す。これらの視点に沿って振り返りを促すことで、児童が学習に対して主体的に取り組み、自分の考えをもてるようにする。

表1 振り返りの視点と言葉掛けの例

|    | ステップ1 見通し | ステップ2 深め進める | ステップ3 振り返り |
|----|-----------|-------------|------------|
| 目的 | 学習の見通しをもつ | 学習を調整する     | 学びを自覚する    |

|        |   |  |  |
|--------|---|--|--|
| 視点     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何ができたか</li> <li>・どのような学習の進め方をしてきたか</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのくらいできたか</li> <li>・学習の進め方はこれでよいか</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何ができたか</li> <li>・どうしたらできたか</li> <li>・生かしたいことは何か</li> </ul>                           |
| 言葉掛けの例 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を考えましたか。</li> <li>・書いた振り返りを読み返しましょう。</li> <li>・どのような進め方がよいと思いますか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあては解決しましたか。</li> <li>・もう少し話し合いますか。</li> <li>・どうしたら解決できるでしょう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何について考えられましたか。</li> <li>・どのようにして考えましたか。</li> <li>・〇〇するときにはどのようにしたいと思いますか。</li> </ul> |

(2) 「振り返りパワーアップシート」の作成・活用

本研究では、「振り返りパワーアップシート」というワークシート（図1）を用いて振り返り指導を行う。「振り返りパワーアップシート」には、単元の評価規準に基づいて設定した振り返りの視点である「振り返りポイント」（次ページ表2）を提示しておく。また、単元の学習課題や学習計画、1時間ごとの振り返りや単元の振り返りを書く欄を設け、児童が記入できるようにする。

単元の「つかむ」過程では、児童は単元の学習課題や学習計画を立て、「振り返りパワーアップシート」に記入する。「振り返りポイント」とともに、単元の学習課題や学習計画をまとめておくことで、児童が単元の学習を通して「何をできるようにするのか」「どのような進め方で学習をするのか」などの見通しをもてるようにする。

単元の「追究する」過程では、導入時に、「振り返りパワーアップシート」に記入した前時の学習を振り返ったり、学習課題や学習計画を確認したりする場を設け、児童が本時のめあてを考えられるようにする。終末には、本時の「振り返りポイント」の確認とともに、学習内容に合わせて具体化した振り返りの視点の提示、書き出しや文末表現の提示などを行い、めあてに沿った振り返りが書けるようにする。また、児童の記述に対して、学びの自覚を促す助言を書くなどのフィードバックを行い、児童が自分の考えを明確に書けるようにする。

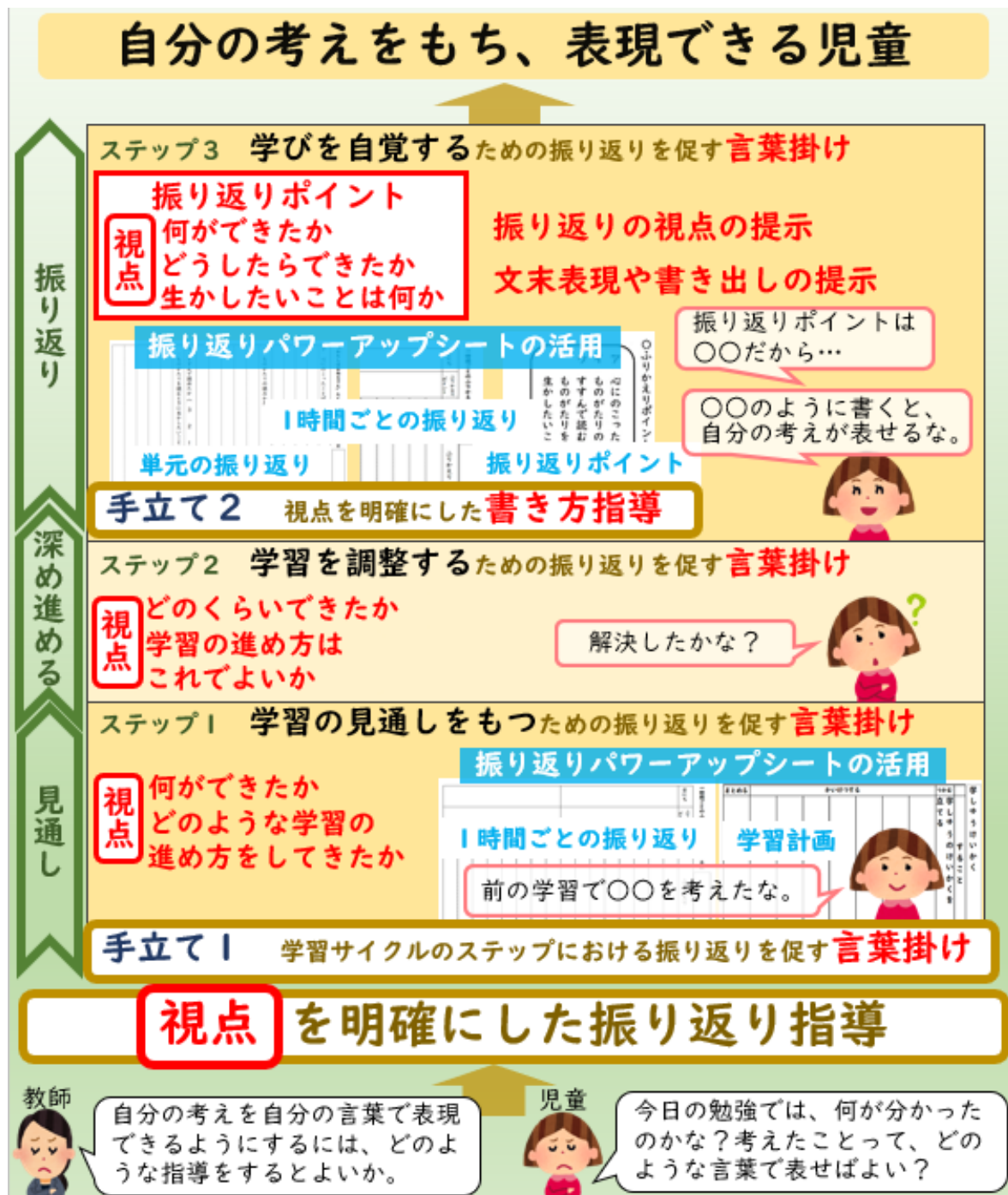
単元の「まとめる」過程では、「振り返りパワーアップシート」の前時までの記述を用いて、「何が分かったか」「どうしたら課題を解決できたか」など、単元の学習についてグループで交流する活動を設定する。どの「振り返りポイント」で、どのような振り返りを書いたのかを確認するよう促し、これまでの学習を振り返ることができるようにする。その後、設定した三つの「振り返りポイント」に基づいて、単元の振り返りを書く時間を設け、児童が学習したことに対する自分の考えを表現できるようにする。

図1 振り返りパワーアップシート  
(第2学年)

表2 本研究の実践単位における「振り返りポイント」

| 評価の観点         | 振り返りポイント                 |  |
|---------------|--------------------------|--|
|               | 「読むこと」                   | 「話すこと・聞くこと」                              |
| 知識・技能         | 心に残った言葉                  | 話合いがうまく進む言葉                              |
| 思考・判断・表現      | 物語の読み方                   | 意見をまとめるための話合いの仕方                         |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 進んで読む<br>物語を読むときに生かしたいこと | 進んで話し合う<br>友達の意見を聞くときや、話合いをするときに、気を付けること |

3 研究構想図



## V 実践の計画と方法

### 1 授業実践の概要

#### (1) 「読むこと」

|       |   |
|-------|---|
| 対 象   | 研究協力校 小学校第2学年 45名   |
| 実践期間  | 令和3年10月27日～11月16日（全10時間）  |
| 単 元 名 | お話の人物と比べながら読み、感想を書こう「わたしはおねえさん」   |
| 単元の目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。<br/>(知識及び技能) (1)オ</li> <li>文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。<br/>(思考力、判断力、表現力等) A(1)オ</li> <li>言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。<br/>(学びに向かう力、人間性等)</li> </ul> |

#### (2) 「話すこと・聞くこと」

|       |  |
|-------|--|
| 対 象   | 研究協力校 小学校第3学年 27名  |
| 実践期間  | 令和3年10月25日～11月5日（全8時間）   |
| 単 元 名 | はんで意見をまとめよう  |
| 単元の目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。<br/>(知識及び技能) (1)オ</li> <li>目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。<br/>(思考力、判断力、表現力等) A(1)オ</li> <li>言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。<br/>(学びに向かう力、人間性等)</li> </ul> |

### 2 検証計画

| 検証項目 | 検証の観点   | 検証方法  |
|------|---|---|
| 見通し1 | 「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えをもてたか。                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の児童と指導者の発言内容の分析</li> <li>「振り返りパワーアップシート」の記述内容の分析</li> </ul> |
| 見通し2 | 「振り返り」において「振り返りポイント」を活用し、めあてに沿った振り返りになるように視点を明確にした書き方指導を行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを表現できるようになったか。 |   |

### 3 評価規準

#### (1) 実践Ⅰ「読むこと」

|        |   |
|--------|---|
| 学年・単元名 | 第2学年 お話の人物と比べながら読み、感想を書こう   |
| 教材名    | 「わたしはおねえさん」   |
| 知識・技能  | 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 |

|               |   |
|---------------|---|
| 思考・判断・表現      | 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 進んで人物と自分とを比べながら読み、学習課題に沿って感想を書こうとしている。  |

## (2) 実践Ⅱ「話すこと・聞くこと」

|               |   |
|---------------|---|
| 学年・単元名        | 第3学年 はんで意見をまとめよう  |
| 知識・技能         | 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 |
| 思考・判断・表現      | 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。   |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 進んで、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、今までの学習を生かして、司会などの役割を果たしながら話し合おうとしている。            |

## 4 指導計画

### (1) 実践Ⅰ「読むこと」

| 時程  | 過程   | ねらい  | 評価の観点     | 「振り返り」における視点                         |
|-----|------|--|-----------|--------------------------------------|
| 第1時 | つかむ  | 教材文に出会い、心に残った言葉を見付け、語彙を豊かにすることができる。                | 知技        | どのようなところが心に残ったか                      |
| 第2時 |      | 初発の感想について話し合い、学習の見通しをもつことができる。                     | 主体態       | 単元の学習で一番知りたいことは何か                    |
| 第3時 | 追究する | 物語の大体を捉えることができる。                                   | 思判表       | あらすじをまとめるポイントは何か                     |
| 第4時 |      | 「すみれちゃん」の人物像を捉えることができる。                            | 知技<br>思判表 | 今日話し合ったことは何か<br>自分と比べて思ったことはどのようなことか |
| 第5時 |      | 「半分ぐらいなきそうでおこりそうなすみれちゃん」の行動について、具体的に想像することができる。    | 知技<br>思判表 | 今日話し合ったことは何か<br>自分と比べて思ったことはどのようなことか |
| 第6時 |      | 「ぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えてきたすみれちゃん」の行動について、具体的に想像することができる。  | 知技<br>思判表 | 今日話し合ったことは何か<br>自分と比べて思ったことはどのようなことか |
| 第7時 |      | 「けしかけてけすのをやめたすみれちゃん」の行動について、具体的に想像することができる。        | 知技<br>思判表 | 今日話し合ったことは何か<br>自分と比べて思ったことはどのようなことか |
| 第8時 |      | これまでに読んできた「すみれちゃん」の行動について振り返り、一番心に残ったところを選ぶことができる。 | 知技<br>思判表 | 一番心に残ったところはどこか<br>なぜその場面を選んだか        |

|      |      |                             |            |   |
|------|------|-----------------------------|------------|---|
| 第9時  |      | 物語の感想をもつことができる。             | 思判表<br>主体態 | どのようにして感想を書いたか  |
| 第10時 | まとめる | 単元全体を振り返り、単元の学びをまとめることができる。 | 知技<br>主体態  | 心に残った言葉は何か<br>どのように物語を読めばよいか<br>進んで読めたか<br>物語を読むときに生かしたいことは何か |

(2) 実践Ⅱ 話すこと・聞くこと

| 時程    | 過程   | ねらい  | 評価の<br>観点 | 「振り返り」における視点  |
|-------|------|--|-----------|---|
| 第1時   | つかむ  | 学習課題を捉え、学習の見通しをもつことができる。                         | 主体態       | 単元の学習でできるようにしたいことは何か  |
| 第2時   | 追究する | 役割と進め方を確かめ、「本を紹介する目的」について話し合うことができる。             | 思判表       | 今日の話合いでできたことやうまくいかなかったことは何か   |
| 第3時   |      | 前時の話合いを振り返り、司会のこつを見付けることができる。                    | 知技<br>主体態 | 司会はどのような言葉を使うとよいか<br>司会になったら使いたい言葉は何か   |
| 第4時   |      | 司会のこつを使って「どのような紹介の仕方がよいか」について話し合うことができる。         | 思判表       | 今日の話合いでできたことやうまくいかなかったことは何か   |
| 第5時   |      | 前時の話合いを振り返り、提案者のこつを見付けることができる。                   | 知技<br>主体態 | 提案者はどのような言葉を使うとよいか<br>次の話合いで気を付けたいことは何か   |
| 第6・7時 |      | 司会と提案者の二つのこつを使って、「3年2組に紹介する本」について話し合うことができる。     | 思判表       | 今日の話合いでできたことやうまくいかなかったことは何か<br>今日の話合いを聞いて、使えると思った言葉は何か                                    |
| 第8時   | まとめる | 話合いの仕方によかったところを伝え合い、話合いをするときに気を付けることをまとめることができる。 | 知技<br>主体態 | 話合いがうまく進む言葉にはどのような言葉があるか<br>どのように話し合うとよいか<br>進んで話し合ったか<br>友達の意見を聞くときや、話合いをするときに気を付けることは何か |

VI 研究の結果と考察

実践Ⅰ「読むこと」

- 1 「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えをもてたか



## (1) 「見通し」

第9時では、前時の学習で選んだ「一番心に残ったところ」を想起した上で、物語の感想を書くという本時のめあてについて考えられるようにするための振り返りを促した。図2は、そのやり取りを記したものである。

初めに、「振り返りパワーアップシート」を見て、前時の振り返りに書いた内容を確認するよう促した。また、第2時で記入した「振り返りパワーアップシート」の学習計画を見て、本時の学習活動を確認するよう促した。教師の「今日は何を考えますか」の問い掛けに対し、ほとんどの児童が「感想を書く」と答えていた。

次に、感想を書くことへの目的意識をもてるように、何のために感想を書くのか、どのような感想を書くかよいかを考えるよう促した。「3年生が分かりやすい感想を書くかよい」という児童の発言に対して、ほとんどの児童がハンドサインで賛同の意を表していた。この児童の発言を生かして、児童はめあてを立てていた。

このように、これまでに学習したことを想起させた上で、本時で考えることは何かを問うことにより、児童は、目的意識の表れためあてを立てることができた。このことから、「見通し」においてこれまでの学習の振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は前時の学習に対する自分の考えをもち、学習の見通しをもてたと考える。

## (2) 「深め進める」

めあてを立てた後、3年生に分かりやすい感想にするには何を書くかよいかを考えるよう促した。児童からは、「一番心に残ったところや心に残ったわけを書くかよい」という意見が出された。「自分と比べて思ったこと」についての発言が出なかったため、「自分も」「自分だったら」と比べて読んできたこれまでの学習を想起するよう促し、感想に書くかよいことを確かめた。感想に書く内容を確認した後、個人解決の時間を設けたが、自力で書くことが難しい様子が見られたため、ここまでの学習の振り返りを通して解決方法を考える場を設けた。図3は、そのやり取りを記したものである。

一人一人が自分の学習状況について振り返ることができるように、「解決

T : 昨日学習したところを確かめましょう。  
C : (振り返りパワーアップシートを見て確かめている)  
T : 昨日の振り返りが読めましたか。学習計画も見てください。  
C : (ハンドサインで「読めた」の合図)  
T : 今日は、何を考えますか。  
C : 「わたしはおねえさん」についての感想を書く。  
T : 何のために感想を書くのですか。  
C : 3年生に伝えるためです。どうですか。  
C : いいね。  
T : (3年生に伝えるためには) どのような感想を書くかよいでしょう。  
C : うーん…  
C : 3年生が分かりやすい感想を書くかよいと思います。  
どうですか。  
C : いいね。  
T : 今日のめあてを考えましょう。  
C : 「わたしはおねえさん」を読んだ感想を分かりやすく書こう。

図2 「見通し」におけるやり取り (T : 教師 C : 児童)

傍線は、振り返りを促す教師の言葉掛け

波線は、言葉掛けに対する児童の反応 (以下、同様)

T : どんなめあてで学習していましたか。  
C : (ノートを読み返している)  
C : 「わたしはおねえさん」を読んだ感想を分かりやすく書こう。  
T : そういうめあてでしたね。  
分かりやすくするために何を書くかよかったですか。  
C : 自分が心に残ったところです。  
C : (ハンドサインで「いいね」)  
T : それで自分は書けていますか。どうですか。  
C : (読み返して確かめている)  
T : できていますか。  
C : (ハンドサインで「分からない」の合図が多い)  
T : どうすると解決しますか。まずは…  
C : 自分で考える。  
C : (自分で考えたら) 友達と話し合う。  
C : グループで。  
T : 「できたよ」という人は?  
C : 友達に教える。  
T : では、その進め方でやってみましょう。

図3 「深め進める」におけるやり取り

している」「解決していない」「分からない」という自分の考えについて、ハンドサインを用いて意思表示するよう促した。「分からない」という児童が多かったため、感想を書くワークシートを読み返すよう促し、再度学習状況について問い掛けた。書いた文章を読み返しても、多くの児童が解決しているか分からないという状況であった。そのため、「一番心に残ったところ」「心に残ったわけ」「自分と比べて思ったこと」について、それぞれの内容ごとに書いている児童の文章を発表させ、自分が同じように書いているか確認するよう促した。その上で、「感想を書く」という課題について解決しているかを問い掛けると、児童は未解決であるという反応を示した。このような児童の反応を受け、「どうすると解決しますか」と問い、これまでの学習を想起させ解決方法を考えるような言葉掛けを行った。児童からは、「友達と話し合う」「グループになって話すといい」「自分でもう一度考える」といった解決方法が出され、「初めに一人で考えて、その後書けた人にアドバイスをもらう」という進め方で合意した。このような学習を調整するための振り返りを行った後、児童は自分たちで考えた学習の進め方に沿って、感想を書き上げた。

このように、感想を書くことが解決しているか、どうしたら解決するかを問うことで、児童が、ここまでの自分の学習状況を振り返り、学習の進め方を決めることにつながった。このことから、「深め進める」において自分の学習状況に対する振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、ここまでの学習に対する自分の考えをもち、学習を調整することができたと考える。

### (3) 「振り返り」

「振り返り」においても「感想を書く」という課題が解決しているかを再度問い掛けた。ほとんどの児童が「解決した」のハンドサインを挙げていた。この反応を受けて、本時の振り返りの内容として「どのようにして感想を書いたか」の視点を示した。「振り返りパワーアップシート」の振り返り記入欄には、全員の児童が、視点到った振り返りを書いていた。

このように、振り返りの視点を具体化して提示したことにより、児童は、めあてに対する振り返りを書くことができた。このことから、「振り返り」において、学習を通して学んだことについての振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、自分の学びを自覚し、学習したことに対する自分の考えをもつことができたと考える。

## 2 「振り返り」において「振り返りポイント」を活用し、めあてに沿った振り返りになるように視点を明確にした書き方指導を行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを表現できるようになったか

前述の第9時の「振り返り」では、「どのようにして感想を書いたか」という振り返りの視点とともに「〇〇という言葉を使って」や「〇〇のことを書けば感想を書けた」のような書き方の例を示した。前述のとおり、全員の児童が視点到った振り返りを書いていた。児童Aは、心に残った理由や自分と比べて思ったことを考えると、感想が書けることを述べている。児童Bは、友達にアドバイスされたことについて具体的に書いている(図4)。また、心に残ったところについて、自分と比べて考えると感想が書けることを述べている。児童Cは、なかなか振り返りを書き出す様子が見られなかった。そこで、児童の考えを引き出すために、板書や児童の書いた感想を指し示しながら、感想を書くにはどのようなことを書けばよ

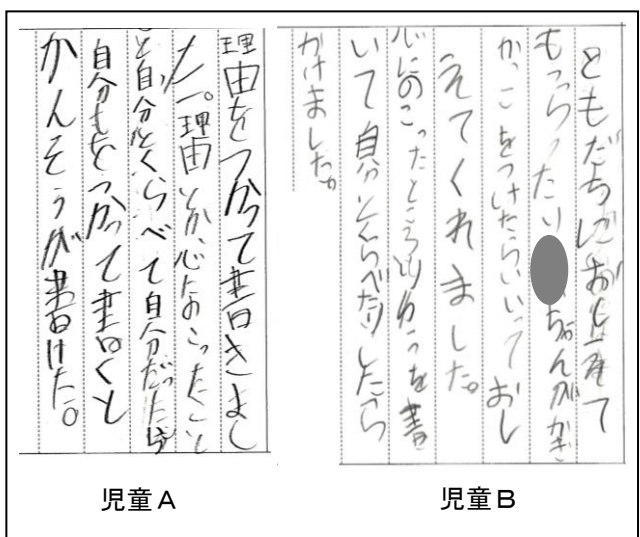


図4 児童の振り返り

かったかを問い掛けた。児童から「自分と比べて」という言葉が出たため、「自分と比べて書くと感想を書けた、ということですか」と問い返した。児童のうなずきを確認し、教師が共感の意を示すと、児童は

視点に沿った振り返りを書いていた。

単位時間の振り返りでは、前述の児童のように個別支援をしたり、「振り返りパワーアップシート」に学びの自覚を促す助言を書いたりして、書き方指導を繰り返し行った。児童Dは、第5時の振り返りにおいて、読んで考えた「すみれちゃん」の行動について、「私はすみれちゃんと比べて違う」ということを書いた(図5)。違うと思った根拠も書けるようになると、更に児童の考えが深まると判断し、「自分だったらどうしますか」と助言をした。この助言に対して、児童は「怒らない」と書き足した。この児童は、第7時になると、「すみれちゃん」

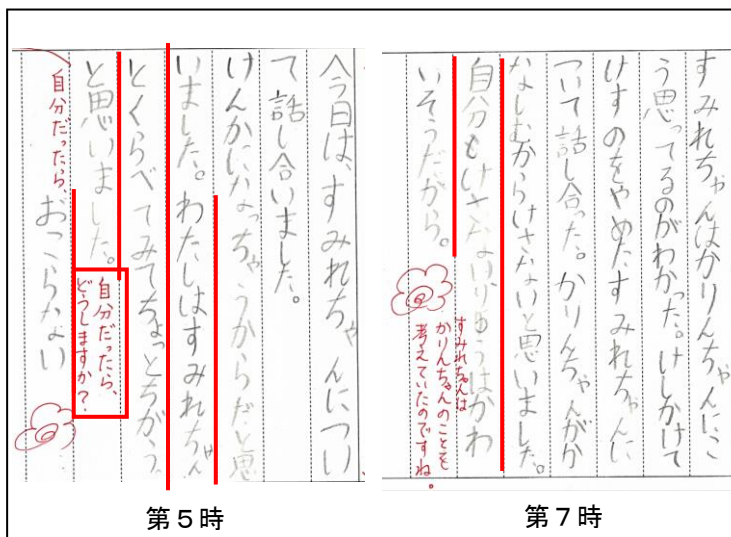


図5 児童Dの振り返り

が妹の描いたものを消さなかった行動について、「自分も消さない。理由はかわいそうだから」と、自分と比べたことについて、理由も踏まえて書けるようになった。

「まとめる」過程では、「振り返りポイント」に沿って単元全体の振り返りを書く活動を行った。本単元の「振り返りポイント」は、「心に残った言葉」「物語の読み方」「進んで読めたか、物語を読むときに生かしたいこと」である。「心に残った言葉」については、全員が物語の叙述の中から心に残った言葉を選んで書いていた。「物語の読み方」については、「心に残った言葉」のように、すぐには児童が考えを書き出すことができなかつたため、本時の前半でまとめた物語の読み方について再度確認したり、「振り返りパワーアップシート」に書いた「物語の読み方」に関する振り返りを読むよう言葉掛けをしたりした。また、「〇〇して読めた」「〇〇して読むとよい」という書き方の例を示し、視点に沿った振り返りを書けるようにした。児童は、「自分と比べて読むと読み方がよくなる」や「自分とすみれちゃんの気持ちを考えると読みやすい」などの言葉で物語の読み方について自分の考えを書いていた。「物語を読むときに生かしたいこと」については、「〇〇(本の題名)も同じように読みたい」や「〇〇(本の題名)も自分と比べて読みたい」などの言葉で表現していた。

このように、「振り返りポイント」に基づいて、振り返りの視点や書き方例を示して振り返りを促したことで、児童が、学習したことに対する自分の考えについて「振り返りパワーアップシート」に書くことにつながった。このことから、「振り返りポイント」を活用して振り返りの書き方指導を行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを表現できたと考える。

## 実践Ⅱ「話すこと・聞くこと」

### 1 「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えをもてたか

#### (1) 「見通し」

第4時では、本時のめあてである「司会のこつを使って話し合う」について考えられるようにするために、前時の学習を振り返るよう言葉掛けを行った。次ページ図6は、そのやり取りを記したものである。

教師の「この間の国語の時間に何をしましたか」の問い掛けに対し、児童は自分たちで撮影した動画を視聴して話し合いを振り返ったことを想起し、「動画を見た」と答えていた。更に、「動画を見ながら」という言葉で児童に再考を促すと、児童は、「よかったところと直した方がよいところを見つけた」と述べた。また、「どのような言葉を使うとよかったか思い出してみましよう」の言



葉掛けに対して、児童は「振り返りパワーアップシート」を広げたり、「自分の振り返りを読むとよい」などの発言をしたりして、前時に書いた自分の振り返りを読み返し、前回の話合いの反省点を生かして話し合うという本時のめあてに関わる発言をしていた。

このように、これまでに学習したことについて児童の言葉を引き出しながら言葉掛けを行うことで、児童は、学習したことについて振り返り、めあてを立てていた。このことから、「見通し」においてこれまでの学習の振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は前時の学習に対する自分の考えをもち、学習の見通しをもてたと考える。

## (2)「深め進める」

第3時では、前時の話合いの仕方について振り返り、司会のこつを見付ける活動を行った。図7は、そのやり取りを記したものである。

初めに、前時の話合いが進んだかを問い、児童が話し合いを想起できるようにした。児童から「(話し合いが)進んだ」という声も上がったが、話し合いが進まなかったという意見に賛同する様子が見られた。更に、どのようなところが困ったのかを問い掛けると、児童から「司会が何を言うのか分からない」や「時間が足りなくなってしまった」といった発言が出された。これらの発言を受け、教師が、「よい方法を見付けよう」と言葉掛けをすると、児童は、納得した様子でうなずいていた。

撮影した話し合いの様子動画を視聴し、話し合いのよかったところや直した方がよいところを話し合った。図8は、そのやり取りを記したものである。児童からは、「2班の話し合いを始め

T: この間の国語の時間に何をしましたか。  
 C: 動画を見た。  
 T: 動画を見ながら…  
 C: よかったところと直した方がよいところを見付けた。  
 T: そうだね。司会の…  
 C: やり方 C: 進め方  
 T: そうですね。司会の進め方を確認したと思います。  
どのような言葉を使うとよかったか思い出してみましょう。  
 C: (振り返りパワーアップシートを指し示しながら) これに書いてある。  
 C: 自分の振り返りを読むといい。  
 (各自振り返りパワーアップシートを読み返している)  
 T: それを見ると、どんな進め方をすればよいか、前よりは分かりますか。  
 C: はい。  
 T: では今日は…  
 C: 話し合う。  
 C: この間の話し合いを生かして話し合う。

図6 「見通し」におけるやり取り

T: 話し合いはうまく進みましたか。  
 C: うん。 C: あまり。  
 T: 困ったチームもある？  
 C: 困った。  
 T: どんなところが困りましたか。  
 C: 司会の人何言うのかわからなくなっちゃったから  
 教えてあげたりしていたら、時間が無駄になっちゃった感じがする。  
 T: 今日は、時間が無駄にならないような…  
 C: 方法。  
 T: 何か、よい方法を見付けてみようと思うんだけど、みんなで。  
 C: (うなずく)

図7 「深め進める」におけるやり取り①

T: 司会のよい話し方が見付かった人がいたね。  
 C: 声小さかったけれど、せりふがちゃんと言えた。  
 T: 例えばどんな言葉？  
 C: 2班の話し合いを始めます、とか。  
 T: なるほど。ほかにありますか。  
 C: みんなが意見を言えるように、ちゃんと言えている。  
 T: 例えばどんな言葉？  
 C: 例えば、「これについて」とか丁寧な言葉。  
 C: 司会が「ほかに意見はありますか」と言って、  
ほかの意見を調べたりする。  
 C: 目的に沿うように話し合えた。  
 T: では、今度は、「もっとこうすればよいのでは」と  
気が付いた人はいますか。  
 C: (司会が) 言う言葉が分からないから (分かんるとよい)。  
 T: 話し方が分かればよいのかも かもしれないね。

図8 「深め進める」におけるやり取り②

ます」のような話し合いを始めるときに使う言葉や、「ほかに意見はありますか」のような意見を促すときに使う言葉を使うとよいという意見が出された。また、直した方がよいところとして、声の大きさが挙げられた。司会が使うとよい言葉についての児童の記述には、「〇〇さん、意見はありますか」や「〇〇についてどうですか」など、自分が使うとよいと思った司会のこつが書かれていた。

このように、「話し合いがうまく進んでいるか」「どのようなところが困ったか」を問うことで、児童は、話し合いの仕方を振り返り、次の話し合いに向けての改善点を見いだすことができた。このことから、「深め進める」において自分の学習状況に対する振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童が、ここまでの学習に対する自分の考えをもち、学習を調整することにつながったと考える。

### (3) 「振り返り」

第6、7時では、児童が（これまでに見つけた）「それぞれのこつを生かして話し合おう」というめあてを立て、「3年2組に紹介する本」について話し合った。「振り返り」では、自分たちの話し合いや他のグループの話し合いの仕方について書く活動を行った。教師は、「（話し合いがうまくいったと思う人は）どういうところがよかったから早く決まったのかな。話し合いがうまくいかないと思った人は、どのようにしたら決められたのかな、決まらなかった原因は何かな、というように話し合いの仕方について振り返りましょう」と振り返りの視点を説明した。児童は、「振り返りパワーアップシート」に視点に沿った振り返りを書いていた。

このように、学習内容についての振り返りの視点を示したことで、児童は、本時の学習を振り返り、自分の学びについて自分の言葉で書いていた。このことから、「振り返り」において、学習を通して学んだことについて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、自分の学びを自覚し、学習したことに対する自分の考えをもつことができたと考える。

## 2 「振り返り」において「振り返りポイント」を活用し、めあてに沿った振り返りになるように視点を明確にした書き方指導を行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを表現できるようになったか

本単元の「振り返りポイント」として、「話し合いがうまく進む言葉」「意見をまとめるための話し合いの仕方」「進んで話し合う、友達の意見を聞くときや、話し合いをするときに気を付けること」を示していた。児童は、第3時と第5時に「話し合いがうまく進む言葉」、第2時、第4時、第6、7時には「意見をまとめるための話し合いの仕方」について振り返りを書いた。また、第1時には「友達の意見を聞くときや、話し合いをするときに気を付けること」について、自分の考えを「振り返りパワーアップシート」に書いた。

「まとめる」過程では、初めに、グループで話し合って本単元で学習したことを振り返る活動を行った。児童は、「振り返りパワーアップシート」に書いたこれまでの振り返りを見ながら、「提案者のこつにはこのような言葉があった」や「司会のこつを使って話し合うとよかった」など、振り返りポイントの「話し合いがうまく進む言葉」や「意見をまとめるための話し合いの仕方」について分かったことを伝え合っていた。その後、グループで話し合ったことを全体で共有し、個で単元の振り返りを書く活動を行った（図9）。「話

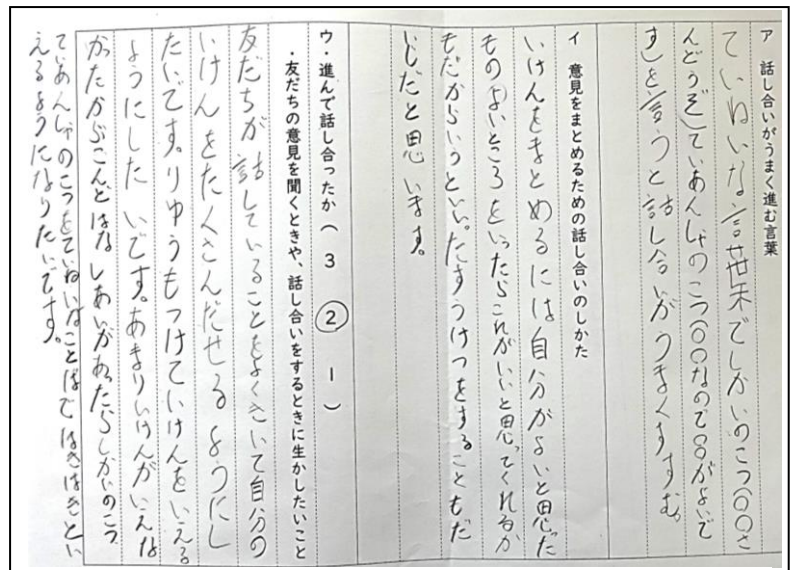


図9 単元の振り返りの記述

合いがうまく進む言葉」の振り返りでは、「〇〇さん、まだ言っていないからどうぞ」「理由は〇〇だからです」などの具体的な記述が見られた。「意見をまとめるための話合いの仕方」の振り返りでは、「意見と一緒に理由も言うと、みんなに伝わりやすくなって分かりやすい話合いの仕方になる」や「理由や意見をたくさん出してまとめるとよい」など、学習内容を踏まえた記述が見られた。「友達の意見を聞くときや、話合いをするときに気を付けること」の振り返りでは、「こつを使って話し合いたい」や「理由も付けて意見を言えるようにしたい」など、見付けたこつを生かす内容の記述が見られた。

このように、「振り返りポイント」に基づいた振り返りの視点や書き方例を示して振り返りを促したことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを「振り返りパワーアップシート」に書くことができた。このことから、「振り返りポイント」を活用して振り返りの書き方指導を行うことで、児童は、学習したことに対する自分の考えを表現できたと考える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、目的に応じて振り返りを促す言葉掛けを行うことで、児童は、「何ができたか」「どうしたらできたか」といった自分の学びを自覚し、学習したことに対する自分の考えをもつことができた。
- 「振り返り」において、「振り返りポイント」を活用して振り返りの視点を提示したり、文末表現や書き出しを提示したりして、視点を明確にした振り返りの書き方指導を行うことで、児童は、「物語はこのように読めばよい」や「〇〇などの言葉を使って話し合うとよい」など、学習したことに対する自分の考えを表現することができた。

### 2 課題

児童が、学習したことに対し自分の考えを表現する場としての振り返り活動のよさに気づき、主体的に自分の学びについて考えられるようにすることが重要である。そのためには、各領域の「考えの形成」の指導事項や児童の発達の段階に応じて、「振り返りポイント」を設定したり、振り返りに表れてほしい表現を具体化したりして振り返り指導を行う必要がある。

## Ⅷ 提言

児童が学習したことに対して自分の考えをもち、表現できるようにするためには、「見通し」「深め進める」「振り返り」の学習サイクルにおいて、自分の学習について振り返り、学びを自覚することが大切である。振り返りを促す言葉掛けを行ったり、振り返りの書き方を指導したりする視点を明確にした振り返り指導を、国語科だけではなく教科横断的に継続させることで、「何を学んだか」「どのように学んだか」「これからの学習に生かしたいことは何か」について児童が自分の考えを表現する力を高めることができると考える。

### <参考文献>

- ・VIEW21教育委員会版 2019vol. 3 ベネッセ総合教育研究所
- ・上山 伸幸 『小学校国語科における話し合い学習指導論の構築』 溪水社 (2021)
- ・梶浦 真 『すべての子どもを深い学びに導く「振り返り指導」』 教育報道出版社 (2021)
- ・藤原 隆博 『主体的に学習に取り組む態度が育つ小学校国語科「めあて・ふりかえり表」10の指導ステップ』 教育出版(2020)

### <担当指導主事>

田所 由美子 天田 直木